

拝啓

寒くも日毎に増しませ今日頃、先生方におかれましてはますますお忙しい日々を過ごされているかと存じます。

さて、この度はペアレンツキャンプの支援を卒業させて頂くことになりました。担当の佐藤先生、また子どもたちと沢山触れあい話を聞いて下さった訪問カウンセラーの先生方、他ペアレンツキャンプの全てのスタッフの皆様へ感謝申し上げます。

約2年前のある日、当時小学2年生だった息子は突然学校へ行かなくなりました。今思えば「全く「突然」ではなく、危ない兆候があったものの、うまくいかず子育てで余裕を失っていた私はそれらをきちんと認識せずにいたのでしよう。そんな私の姿に息子は「このままじゃダメだよ」と教えてくれたのだと思います。

息子が不登校になる前から通っていた心理カウンセリングでも「お母さんが『ねばつよらつよい』にとらわれすぎていませんか?」と何度も言われていたのに、あんまり状況になるまで息子に向きあえませんでした。

支援を受けることになり、何度も何度も先生から「お母さんがしゃべりすぎです」「もう口を開くのを我慢しましょう」と言われ続け、それまでの習慣から抜け出すまではとても辛かったです。しかしそこを抜けてしまえば「まあいいや」と思えるようになり、とても楽になりました。

復学後は息子は病欠以外の欠席はなく、インフルエンザで1週間休んだ後も特に問題なく登校できています。不登校になる前と比べるとかなり体型が丸くなったりと、体を動かすことを嫌がるようにはなったりと、親としてはうーん...というところもありますが、表情は断然明るくなりましたし、学校での話もしてくれるようになりました。

下に小まなほ妹もいて、たまにたまにすかぶも大変だった
かと思いますが、訪問の先生方にも大変お世話に
なりました。最近では先生方のことが言葉に上がることが
ほとんどなくなっていました。子供たちには
楽しかった思い出として残っていくことだろうと思います。

泣きまなほが家で暴れる様子を見ている間は、なんとかに
い「穏やかに過ごせる日か」なんとか早く訪れるとは
思いませんでしたが、先生方の「協力で現実のものとなり
ました。本当にありがとうございました。

最後に、皆様との今後一層の「活躍をお祈り申し
上げます。

敬具

平成28年12月